

2021「マクベスからさまよい 出たもの -2020」 3/7 日 16:00

鳥根県民会館 中ホール

チケット料金 大人 1,500円 18歳以下 無料

予約開始日 予約受付は2月7日 10時より

ご予約 チケットのご予約は鳥の劇場および鳥根県民会館でお受けします。
料金はご来場時にお支払ください。
※3月4日以降は鳥根県民会館でのみ予約を受付ます。

■鳥の劇場

電話・FAX / 0857-84-3268

ウェブ / www.birdtheatre.org

電子メール / ticket@birdtheatre.org

■鳥根県民会館 チケットコーナー

電話 / 0852-22-5556

お問い合わせ 鳥の劇場 電話 / 0857-84-3268

感染症予防対策を講じた上で上演します



お客様が十分な距離を取れるよう、満席時の半以下の定員でプログラムを開催します。



会場の定期的な換気、消毒を行います。



ご入場前に検温を実施します。(37.5度以上の発熱がある方は、ご入場をお断りする場合があります。)



マスクの着用をお願いします。



「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」の利用をお願いします。

上演を多くの方に楽しんでいただくために



字幕あります
セリフが聞こえづらい方のために、手に持てる小さい「字幕」をご用意しております。



手話通訳あります
舞台上で全てのセリフを手話通訳いたします。



音声ガイドあります
舞台上の俳優の動きなどを音声で説明いたします。

FAXお申し込みフォーム

(鳥の劇場 FAX: 0857-84-3268)

お名前: _____ お電話番号: _____

お住まいの都道府県: _____ 人数: ■大人()名 ■18歳以下()名

お連れ様お名前: _____ お連れ様お電話番号: _____ お住まいの都道府県: _____

じゆう劇場

マクベスから

さまよい

出たもの -2020

構成・演出: 中島諒人
「配役」: 台本: 永山智行
出演: じゆう劇場



2021
3/7 日 16:00

鳥根県民会館 中ホール(鳥根県松江市殿町158)

2018年、鳥根県民会館は開館50周年を迎えました。とだけの人々が、この劇場で舞台芸術に触れて夢や希望に包まれたこと、自分でも楽器を演奏してみたい、踊ってみたい演じてみたいとここに集まり、実際に舞台上で拍手を浴びた方も多いと思います。

劇場には、未来に進む力・ひとりひとりを結びつける力があります。その可能性を次の50年では最大限発揮していきたいと、新しいプロジェクトを立ち上げました。

「インクルーシブシアター・プロジェクト」。

地域社会に暮らすひとりひとり(子どもも、お年寄りも、障がいのある人もない人も、経済的に困っている人もそうでない人も、男も女もその他の人も)みんなが集まってつながるコミュニケーション(劇場)が目標です。

まだまだ課題も多く、少しずつではありますが、一歩ずつ。

これまで、視覚に障がいのある方を含む市民ダンサーとプロダンサーとの協働でダンス作品を制作してきました。今では一つのダンスチームです。

おとなり鳥取県の「鳥の劇場」は地域社会に根を張り、早くからそうした取り組みを実践されています。「じゆう劇場」はそんな取組みから誕生したプロジェクト。参考にさせていただこうと観劇して「面白い!鳥根の人に絶対に観てもらいたい!」と今回の開催となりました。

この機会をお見逃しなく。未来の可能性に満ちた劇場体験です。

鳥根県民会館

じゅう劇場

マクベスから

さまよい出たもの

-2020

Things wandering off "Macbeth"

構成・演出…中島諒人
「配役」台本…永山智行
出演…じゅう劇場



作品について

シェイクスピアの「マクベス」から出発する本作は、マイノリティと「権力」の関わりを見つめた作品です。

権力を求めるという、名誉やお金を求める利益追求行為のように思われるかもしれませんが、権力があるという状態を、「社会的に能力が発揮できる場や機会が十分に与えられている」とことだと考えるなら、私たちの社会の現状では、障がいのある人には権力のない人がまだまだ多く、そういう人たちが力を獲得することは、個人にとって有益であるだけでなく、社会全体にとっても大きな意味があるはずです。

この舞台には、今までの作品同様に、いろんな人が出演します。知的障がい・肢体不自由・精神障がいなど多様な障がいのある人たち、そして障がいのない人たち、それから鳥の劇場の俳優たちです。年齢も幅広く、小学生から60代まで。みながチームとして一丸になりながら、「マクベス」の物語を脱線も含めながら進めます。

そして後半では、劇作家・永山智行さんによるオリジナル短編戯曲「配役」が唐突にくっつけられます。パラリンピックの金メダリストの政治利用をめぐる権力闘争の物語です。日本の現政権への



アイロニーに満ちたこの短編は、序盤はブラックな政治風刺のように見えますが、やがて現代社会が抱える本質的で普遍的な課題を浮かび上がらせています。

「マクベス」と「配役」、そして出演者の経験に基づく生の言葉、これらのコラージュによる『「マクベス」からさまよい出たもの-2020』は、演劇作品として十分に楽しめるものになっていると思います。同時に、障がいのある人たちの自己実現について、そしてみんなの自己実現についても、深く考えることのできる舞台になったと思っています。

(鳥の劇場芸術監督・演出家 中島諒人)

じゅう劇場とは

鳥の劇場のプロデュースのもと、2013年8月に活動を開始したプロジェクト。障がいのある人、ない人がいっしょに舞台を作り、日常生活では隠れがちなそれぞれの豊かな可能性を発見し、その素晴らしさを観客と分かち合うことを目指す。

毎年参加者を公募し、継続的な参加者と新規の加入者が混じりながら創作をする。県外・海外での公演や短編作品の出張公演、海外との共同制作も実施している。



🎬『じゅう劇場の瞬き』
映画監督山崎樹一郎氏がじゅう劇場の2016年公演を稽古から撮影したドキュメンタリー映像作品。ホームページから視聴可能。>>>



じゅう劇場ホームページはこちら

じゅう劇場



鳥の劇場について

2006年設立。演出家中島諒人を中心に俳優や技術スタッフなど演劇人が、自分たちの力で鳥取市鹿野町の使われなくなった小学校や幼稚園の施設を劇場に変え、NPO法人として運営。演劇の力と常駐する専門家集団の力を核とし、現代演劇の作品の力と劇場という場の力を通じて、様々な社会的実践を重ね、全国、そして世界からも注目を集めている。「創る」「いっしょにやる」「試みる」「招く」「考える」「成長の支援」の6つのプログラムを事業の柱とし、コミュニティの中に劇場と現代演劇があることの社会的な可能性をさまざまに模索している。

じゅう劇場これまでの上演

2014年度 『三人姉妹』
とりぎん文化会館(第14回全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会)

2015年度 『「ロミオとジュリエット」から生まれたもの』
鹿野往来交流館 童里夢(鳥の演劇祭8)、米子市児童文化センター

2016年度 『じゅう劇場版「銀河鉄道の夜」』
鹿野往来交流館 童里夢(鳥の演劇祭9)、とりぎん文化会館、米子市文化ホール

2017年度 『「ロミオとジュリエット」から生まれたもの-2017』
鳥の劇場(鳥の演劇祭10)、倉吉未来中心、Le Lieu Unique [フランス・ナント]

2018年度 『「ロミオとジュリエット」から生まれたもの-2018』
鹿野往来交流館 童里夢(鳥の演劇祭11)、米子市公会堂、高知県立美術館ホール、東京芸術劇場シアターウエスト

短編作品 『いらいっしやいませ、ウォルマートへ』 『たぶん、朝食の後に』
手話カフェSign、鳥取県議会議場、鳥取大学芸術文化センター

2019年度 『「マクベス」からさまよい出たもの』
鹿野町総合福祉センター(BeSeTo演劇祭26+鳥の演劇祭12)、倉吉未来中心

短編作品 『いらいっしやいませ、ウォルマートへ』 『たぶん、朝食の後に』
鳥取看護大学、鳥取短期大学、手話カフェSign、鳥取大学芸術文化センター、バンコク芸術文化センター [タイ・バンコク]

2020年度 『「マクベス」からさまよい出たもの-2020』
倉吉未来中心、鳥の劇場(鳥の演劇祭13)

短編zoom作品 『CTRL L』 『キャストینگ・パーティー』*

*アメリカ・ニューヨークで活動するTBTB(障がいのあるプロアーティストを支えるニューヨーク唯一のオフブロードウェイ劇団)とのzoomを利用したコラボレーション作品。年度内公開予定。

